

## 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日、この春のよき日に伝統ある東雲のキャンパスに松山東雲女子大学、松山東雲短期大学に入学されました二百七十五名の皆さんをお迎えし、入学式を挙行できますことを教職員一同大変嬉しく存じます。

また、皆さんを支えてこられたご家族や関係者の方々に重ねてお祝いを申し上げます。

本学は一八八六年、二宮邦次郎牧師の女子教育に対する強い思いによって四国で初めての女学校として開学した松山女学校を母体としております。そのきっかけとなったのは重松テイという名の一三歳の女の子が二宮牧師にもっと勉強がしたいと打ち明けたことから始まりました。松山東雲学園はこの長い歴史の中で地域に必要とされる女性人材の育成一筋に努力を重ねてまいりました。

皆さんはこれから学生生活の個人史にペンを走らせる事になります。その物語は皆さん一人ひとりが主役です。今という時間は長い人生で一度しかありません。日本には一生に一度限りの機会を大切にするという一期一会という言葉があります。学友との生活、知識との遭遇、実習等での体験、そこには必ず人がいます。皆さんの心のページに自分だけの人との新しい物語を綴って下さい。

同じ時は二度とないのと同様に、身体のアトミは常に入れ替わり、物理的に

人、個人は常に新しいといえます。反対に、私たちの顕在的記憶は変化せずその記憶によって思考し行動しているように思えます。しかし、何かの拍子に忘れていた記憶がふっと思い出されるように、何気ない日常の経験の積み重ねが心の奥深くに堆積し、知らず知らずにその人の特性を形作ります。忘れ去られたと思う経験記憶も非常に重要です。

さて、クリスチャンとしても知られている西郷隆盛は敬天愛人という言葉をよく口にしていました。意味は神を敬い隣人を愛せよとの事です。その解釈を西郷南洲翁遺訓の中で示していますが、今風には次のようになります。

人の道は天地自然のもので、人の道に外れぬように生き、天を敬う事は当然である。天は他人も私も同じように受け入れ、愛してくれる。天が私を愛するように他人を愛しなさい。他人の言うことに振り回されず、天に対し人の道理を尽くしなさい。人との関係がうまくいかない時は他人を咎めずに自分自身の誠が足りないかと反省しなさい。

私は大自然や宇宙の摂理をあるがまま受け入れると、自らが生活する地域社会の人々と共存できる、共存できないのは自分自身が宇宙、自然の道理摂理を実践できていないからと考えます。日本では子どもにお天道様が見ていると言います。自分自身の言動に恥じないよう律せよと言うことでしょう。この西郷隆盛は戦に負けても国に対する仁、義、忠、徳を蔑ろにしてはいけない、特にお天道さんである義に背く事があってはならないと言っています。

私たちは太古より大切に育んできた心は社会の繁栄と存続です。その日

本人的な心は遊び・スポーツの中にもあります。日本の羽根つきに似たバドミントンがあります。バドミントンは競技の条件を平等に行い、相手より優位に立つ競技です。しかし、日本の羽根付きにはこの平等条件が無く、如何にふたりで長く羽根を突き続けるか、調和や協調を大切にすることを競技です。

これからの大学生活で分からない時、道に迷った時、友人や先生、家族を頼ってください。共生共存は人類が獲得した生存の為の知恵です。皆さんは東雲の学生として新しい人生のページを開きます。躊躇する事なくこの新しい環境で仲間や先輩そして大学の教職員や地域の人々との触れ合いの経験を重ねてください。そして皆さんが新しい自分発見の旅を歩み始めることを心より期待しています。

本日はご入学本当におめでとうござります。

二〇二三年四月三日

松山東雲女子大学 松山東雲短期大学 学長 高橋圭三